

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「創造力を育む学校」をめざす。

- 1 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養
- 2 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の定着
- 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成
- 4 自ら学び続ける教師集団の確立

## 2 中期的目標

## 1 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養

## (1) 安全安心な学校生活。

ア 生徒をより深く理解するために、「高校生活支援カード」「個人面談週間(4月・6月・11月)」等を活用する。

また、「学年会議」等で、生徒情報を共有化し、中退やいじめの防止に努める。

※ 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(H29の62.9%を2020年度には70%にする)

※ 保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」(H29の53%を2020年度には65%にする)

イ 部活動を通して多くの生徒に成功体験を積ませる。

※ 生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」(H29の46%を2020年度には65%にする)

## (2) 主体的に多様な人と協働しながら学ぶ態度を養う。

ア 校外での活動で生徒が活躍できる場を提供する。

イ 基本的な生活習慣の確立。

※ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」(H29の84%を2020年度には90%にする)

ウ 生徒が学校行事を自主的に企画・運営することで達成感を実感させる。

エ 地域社会や学校の一員としての自覚と責任感を持ち、愛校心及び他者を思いやる心を養う。

## (3) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育。

ア 学校施設等の諸条件の整備。

イ 防災教育や危機管理体制を再構築する。

## 2 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の育成

## (1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。

ア ICT活用と言語活動をキーワードに、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」で、生徒のやる気を引き出す。

※ 教員の「ICTを使って授業を展開している」(H29の37%を2020年度には75%にする)

イ 少人数展開授業をはじめ、各授業や講習、補習の充実を図り、基礎基本の定着に努める。

※ 生徒の「内容がわかりやすい授業が多い」(H29の68%を2020年度には75%にする)

## (2) 生徒に「知能・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成。

ア 生徒の多様な学びの要望に応えるカリキュラムや課外プログラムの提供に努める。

イ 生き抜いていく基となる資格取得を進める。

ウ あらゆる科目において、「考える」「まとめる」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを研究する。

※ 生徒の「学校の評価は、テストの点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている」(H29の79%を2020年度には85%にする)

## 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育成

## (1) キャリア教育プランの実行。

ア 3年間のキャリア教育プランに基づき、1年次から進路意識の高揚を図り、生徒個々が将来の生き方をデザインする。

※ 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」(H29の63%を2020年度には75%にする)

イ 1年次より外に出かけ、進路を意識する機会を提供する。

ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の取組みを通して、将来を見据えて継続的に頑張ることができる生徒を育てる。

エ あらゆる教育活動を活用し、生徒や保護者へのきめ細やかな情報の提供を行う。

※ 生徒の「先生は進路についての情報を良く知らせてくれる」(H29の74%を2020年度には80%にする)

オ 卒業時の進路未決定者の割合を減らす。(H29の11%を2020年度には5%にする)

## (2) アセスメントの活用。

ア 基礎教養の定着度や「個々の強み」を知るために、アセスメントを活用し、一人ひとりが持てる力を伸ばし、進路実現を図る。

※ 生徒の「自分の学力の向上を実感している」(H29の61%を2020年度には70%にする)

## (3) 入学前から生き方プランを考える機会を提供する。

ア 本校で頑張りたいと思う生徒が入学できるように広報活動を行う。

イ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」の継続実施により、様々な活躍の場があることを示す。

## 府立泉鳥取高等学校

## 4 自ら学び続ける教師集団の確立

## (1) 授業改善のための学び合い。

ア 外部の力を活用した研修を行い、自ら学び続ける教師集団を育む。

※ 教員の「研究授業を定期的実施している」(H29の11%を2020年度には35%とする)

イ 外部の研修に参加しやすい職場環境を保持し、研修で得た情報や知識を校内研修で共有し還元する。

ウ 授業観察及び相互の意見交換を行うことで自ら授業改善に取り組む。

※ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」(H29の66%をH32には75%とする)

## (2) 教員が本校生徒、学校の実情を知る。

ア 情報交換の場を設けることで交流を促す。

※ 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」(H29の41%を2020年度には65%とする)

イ ミドルリーダーの自覚を促し、学校の活性化に向けての取組みを立案させる。

※ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」(H28の55%を2020年度には70%とする)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[平成30年12月実施]	平成30年度 学校運営協議会からの意見																																				
<p>学校経営計画が、どのように取り組んでいるかが分かるよう各質問項目を選び、経年変化を考察する。(生：生徒 教：教員 保：保護者) あてはまる%</p> <p>1 確かな学力</p> <p>○わかりやすい授業を拡充・展開する 30年 (29年)</p> <table border="0"> <tr> <td>生「自分の学力の向上を実感している」</td> <td>56%</td> <td>(61%)</td> </tr> <tr> <td>教「授業は、基礎学力の向上に重点を置いている」</td> <td>82%</td> <td>(80%)</td> </tr> <tr> <td>保「子供の基礎学力が向上したと感じる」</td> <td>47%</td> <td>(56%)</td> </tr> </table> <p>昨年とは質問内容を少し変化させた、授業は少人数、ICTの活用、参加体験型を多く取り入れ、意欲がわくように工夫している。教員の実感や手ごたえは上昇しているようであるが、生徒・保護者の実感としてはあまり伸びが見られない。</p> <p>2 安全安心な学校 ○生徒に寄り添う生活指導 30年 (29年)</p> <table border="0"> <tr> <td>生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」</td> <td>63%</td> <td>(63%)</td> </tr> <tr> <td>教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」</td> <td>80%</td> <td>(67%)</td> </tr> <tr> <td>保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」</td> <td>63%</td> <td>(53%)</td> </tr> </table> <p>今年度も懇談会や「支援カード」等を活用しながら丁寧な対応をした。教員・生徒の回答が増加した。中でも、教員の回答が大きく増加した。保護者に対しては、今以上の丁寧な働きかけを心掛ける必要がある。</p> <p>3 将来の生き方デザイン ○1年からの系統的なキャリア教育 30年 (29年)</p> <table border="0"> <tr> <td>生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」</td> <td>62%</td> <td>(66%)</td> </tr> <tr> <td>教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」</td> <td>69%</td> <td>(67%)</td> </tr> <tr> <td>保「懇談等で1年次から進路に関して具体的に先生と話している」</td> <td>55%</td> <td>(53%)</td> </tr> </table> <p>1年からのキャリア教育については、保護者・教員ともに増加をしている。教員間での情報共有を心掛けるとともに対応は丁寧に行っており、生徒へは浸透していることが見られる。保護者からの回答に変化がないことを考えると、安全安心な学校と同様に今以上の丁寧な働きかけを心掛ける必要がある。これらの事実を踏まえて、今後の改善を図りたい。</p> <p>4 教員の育成(資質向上) ○校内教員研修の充実 30年 (29年)</p> <table border="0"> <tr> <td>生「他の先生が授業を見学にくることがある」</td> <td>60%</td> <td>(66%)</td> </tr> <tr> <td>教「研究授業を定期的実施している」</td> <td>7%</td> <td>(11%)</td> </tr> <tr> <td>保「先生は、一社会人として適切な対応ができている」</td> <td>67%</td> <td>(62%)</td> </tr> </table> <p>授業力の向上をめざして、初任や10年目の教員の研究授業は各学期で最低1回以上実施し、意見交換や交流を実施したが、その他の教員については、お互いの授業を見る機会がすこし疎かになっているかもしれない。今年度、人権や教育相談などで自発的に研修会を実施するなど、多方面での研修会を開催したが今後も有効な研修を工夫していく必要がある。</p> <p>◆その他の特筆すべき結果</p> <p>① 取組みの周知・説明等、工夫が必要である。</p> <p>② 昨年度、保護者の回答において「進路情報」「人権尊重」についての項目の向上が見られた。「生徒相談室」の利用方法については低い値のまま(24%)なので高めていく必要がある。</p> <p>③ 「部活活性化」については、運動部のみでなく、文化部の活性化にも努めて現状を少しでも向上させる取組みを地道に進めていく。</p> <p>④ 「学力向上」については、授業のわかりやすさ、教え方の工夫、生徒の努力や取り組む姿勢、評価の公平性など、さらなる向上をめざす必要がある。</p> <p>⑤ 進路指導については、1年生から継続的に行っている。生徒の意識の向上につながっていると考えられるので、さらに継続的に取り組んでいきたい。生徒の成長を計画的に実施するための「イズトリ」スタンダードの修正・改編など、より充実した学習計画の展開で自己肯定感や基礎学力を高めていきたい。</p>	生「自分の学力の向上を実感している」	56%	(61%)	教「授業は、基礎学力の向上に重点を置いている」	82%	(80%)	保「子供の基礎学力が向上したと感じる」	47%	(56%)	生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」	63%	(63%)	教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」	80%	(67%)	保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」	63%	(53%)	生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」	62%	(66%)	教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」	69%	(67%)	保「懇談等で1年次から進路に関して具体的に先生と話している」	55%	(53%)	生「他の先生が授業を見学にくることがある」	60%	(66%)	教「研究授業を定期的実施している」	7%	(11%)	保「先生は、一社会人として適切な対応ができている」	67%	(62%)	<p>◎本年度の協議依頼事項</p> <p>■生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「創造力を育む学校」</p> <p>1. 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる『豊かな人間性』の涵養 (1)安全安心な学校生活 (2)主体的に多様な人と協働しながら学ぶ態度を養う (3)学校施設等の諸条件の整備</p> <p>2. 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く』力の基となる『確かな学力』の育成(1)「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わわせ、生徒のやる気を引き出す。(2)生徒に「知能・技能」「思考力・判断力・表現力」を育成する。</p> <p>3. 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成(1)キャリア教育プランの実行 (2)入学前から生き方プランを考える機会を与える(適切な広報活動)</p> <p>4. 自ら学び続ける教師集団の確立</p> <p>第1回:平成30年6月22日(金) 15:00~17:00</p> <p>○幼稚園、小中学校、高等学校との交流で、互いに多くのことを学んでいる。こういった交流のなかで、「楽しく学び青春している」という風に見受けられ、とてもよいと感じている。社会に出たときに、今までの経験によって積み重ねられた、想像力は非常に重要であると思う。また、地域の活動や学校内での取組み等を多くの人にわかるように伝えてほしい。また、広報活動を活発にして、地域や保護者に今の活動を伝えていくべきではないか。また、アクティブラーニングや学校スタンダードといった、生徒を教育することの目的や方法を考えていくことも今後の課題といえる。次回までにこれらの本質をつかみ、学校における教育をよりよくしていただいたい。</p> <p>第2回:平成30年11月9日(金)15:00~17:00</p> <p>「魅力ある学校」について協議をした。出た意見をまとめてみると大きく4つの柱があり、「①学びに向かう力がある」「②個性を伸ばす体験が用意されている」「③規律正しく改革に向かう力がある」「④地域への発信力・変革力がある」といったものであった。この提言を大切に、特に、地域をリードし変革していく学校ということについては強く意識した。生徒が10年後・20年後に、しっかり社会貢献できるような基礎をこの学校で養ってほしい。それを目標に、学校としても、今すぐやるべきことにしっかりと取り組んでほしいという提言があった。</p> <p>魅力ある学校について(まとめ)</p> <p>(1)「〜に向かう力」がある</p> <p>◇学びに向かう、「〜に至ろうとする力」、「〜しようとする力」がある。</p> <p>◇キャリアアップに向かう力がある</p> <p>★結果へ向かう前提条件がある ★達成感が「向かう力」を高める</p> <p>(2)学校教育の中に有意義な体験の機会がある</p> <p>◇教育目標に沿った行事が適切に配置されている。地域との連携が適切であり、貴重な体験ができる</p> <p>◇生徒が主役で意思が尊重されている。</p> <p>(3)学校に規律と改革に向かう力がある</p> <p>◇規律ある生活(正しい制服の着用等)</p> <p>◇教員を突き動かしている何かがある</p> <p>第3回:平成31年1月18日(金)15:00~17:00</p> <p>“社会で通用する人間を育てたい”という目標達成には、高校でコミュニケーション能力をつけて継続的に働ける人間を育てていかなければならない。具体的にどうやってその力をつけられるかを書き示した方が、より説得力があると思われる。コミュニケーション能力について段階的に向上させる必要がある。①あいさつ：相手にアクセスする ②自分の意志を伝える ③相手を理解する ④周りの状況が分かり、その中での相手と自分を理解する ⑤社会の規範を理解した上で、社会とコミュニケーションできる。</p> <p>◆企業が求める力の20項目のうち、一番目はコミュニケーション能力である。その中でも、“人の話を聞く”事が大事だ。ラーニングピラミッドにおいて、教える事が一番学習効果がある。(ラーニングピラミッドの説明。)ラーニングピラミッドを参考にして、学力もコミュニケーション能力も伸ばしていけるのではないだろうか。意見のまとめとして、学外で本校が高い評価を得ている事を、生徒に伝えて褒めてあげてほしい。コミュニケーション能力を伸ばすための具体的な取組みを考えてほしい。多忙な教員、研究授業の少なさ等が指摘されていたが、人材をうまく活用できるよう、組織作りについて校長先生を始めとして考えていただきたい。また、これらの提言を参考にして学校経営計画を作成してほしい。</p> <p>【大阪府立泉鳥取高等学校における平成31年度の取組みに向けて(提言)】</p>
生「自分の学力の向上を実感している」	56%	(61%)																																			
教「授業は、基礎学力の向上に重点を置いている」	82%	(80%)																																			
保「子供の基礎学力が向上したと感じる」	47%	(56%)																																			
生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」	63%	(63%)																																			
教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」	80%	(67%)																																			
保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」	63%	(53%)																																			
生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」	62%	(66%)																																			
教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」	69%	(67%)																																			
保「懇談等で1年次から進路に関して具体的に先生と話している」	55%	(53%)																																			
生「他の先生が授業を見学にくることがある」	60%	(66%)																																			
教「研究授業を定期的実施している」	7%	(11%)																																			
保「先生は、一社会人として適切な対応ができている」	67%	(62%)																																			

## 府立泉鳥取高等学校

- ⑥ 本校の教員は、生徒に親身にかかわり、話や相談もしやすい努力はしている。保護者の評価も上向いてきているので、さらなる改善を図りたい。
- ⑦ 次年度は、質問項目の工夫などにより、さらに学校経営の重点目標の成果の見えるかに努めたい。

泉鳥取高校は、平成29年度の提言に基づき、平成30年度は生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「創造力を育む学校」をめざしてきた。具体的には、

1. 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養
2. 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の定着
3. 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成
4. 自ら学び続ける教師集団の確立

を掲げて、今年度も積極的な教育活動に取り組んでいる。

特に、「①「豊かな人間性」の涵養 ②「確かな学力」の定着」は車の両輪であり、生徒支援と地域連携を念頭においた「ハート偏差値日本一」、また、「阪南市全体をキャンパス」に見立て自己肯定感の育成や地域連携の推進という大きな課題に取り組み学校改善に努めている。そして、本年度の第2回目の学校運営協議会における「魅力ある学校」についての意見まとめとなった、「イブトリが変わり、イブトリで変わり、イブトリが変える」を合言葉として次年度も学校改善、意識改革に取り組んでいただきたい。泉鳥取高校の教育環境はどんどん変わってきており、その環境のもと生徒が泉鳥取高校で成長(変化)し、身につけた力で社会に飛び出し社会を変えていってほしい。人工知能が進化し、若者の未来の職業が大きく変化していくと言われる中、本当にそのような変化が起きるのか、また、起きるとしても、人口知能にできない人間だけが成せる、より高次元でクリエイティブな仕事力とたくましさをも身につけてほしい。そして、新しいスキルや知性を磨き、これまで以上に創造力を発揮して何かを生み出し時代を切り開いていくことができる「たくましく生き抜く力」、そのために必要な普通科高校の役割を全うし、進学を中心とし将来の進路を実現し、生徒一人ひとりの自己実現を図っていただきたい。

最後に、学校の真価を高め伝統を引き継ぐとともに、停滞を打破し進化していく学校、教育活動を常に見直し、深化・改善を求めてやまない学校をめざし、上記の「イブトリが変わり、イブトリで変わり、イブトリが変える」をモットーに、気概にあふれた教育活動への取り組みに邁進していただくことを期待し、以下の提言を行う。

### 1. 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養

#### 重点項目

生徒たちが主体的に行事の計画立案・実施できる環境を整備し、達成感や自己肯定感・自尊感情(自己重要感)など豊かな心を育む取り組みを積極的に導入する。また、それらを指導できる教員の力量を高める。

- (1)授業や行事における人間的な触れ合いや地域の教育的資源の積極的活用と地域貢献を図る。
- (2)地元の幼・小・中学校、児童・生徒・教員との交流を図る。
- (3)国際交流委員会の活用により、大学等との交流や海外修学旅行の実施等、関連行事の企画・実施を通じて豊かな国際感覚、グローバル教育の充実、コミュニケーション能力の向上に努める。
- (4)部活動の活性化を図り、様々な活動の発表会等を企画実施する等、豊かな人間性の向上に努める。
- (5)生徒の自主的活動や体験の場の充実に努め、豊かな心の育成に積極的に取り組む。
- (6)計画的な教育活動による人権感覚の涵養、道徳やいじめ防止の教育の推進に取り組む。
- (7)生徒会を活性化し、生徒が主体的に行事の企画や実施を行えるようにする。

### 2. 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の定着

#### 重点項目

「イングリッシュ・カフェ」などの地域連携企画を継続発展させ、学校・家庭・地域との連携・協働・活性化、小・中・大・専門学校・事業所・関係諸機関とのより一層の連携・協力を通じて効果的な教育活動を行い確かな学力の向上に努める。また、コミュニケーション能力の向上に努める。

- (1)大学・専門学校等での授業体験や学生の教育ボランティアの導入などで効果的な学習に取り組める環境づくりと高大連携の推進を図る。
- (2)インターンシップをより一層充実させるなど、職業指導やキャリア教育の推進を図る。
- (3)様々なメディアを活用して教育力向上に努め、家庭・地域・小中学校等への積極的な発信に努める。
- (4)カリキュラム・マネジメント、授業力の向上のための具体的組織づくりに取り組む。
- (5)あらゆる科目において、生徒の「考える」「まとめる(統合)」「発表(発信)する」力等の生徒の学びの質の向上に取り組む。特に、授業時間の確保や探究、朝学習などの活性化に取り組む。

### 3. 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成

#### 重点項目

キャリア教育の一環として、生徒一人ひとりが社会人・職業人として自立し、「夢・夢中・<sup>むげんだい</sup>夢限大！」をキャッチフレーズに学習・学校生活・進路実現に力を注ぎ、社会に貢献できる多様な人材の育成を図る。

- (1)生徒一人ひとりが意欲的に取り組める授業(わかる・聞かせる・自ら取組む)を行う。
- (2)入学時から、学校全体で、生徒が夢と志を持ち卒業後の自身の生き方を考え、進路を選択し、それに向けた準備ができることをめざした組織的・計画的な進路指導に取り組む。
- (3)他者と自分の両方を大切にし、自己肯定感を培い人間的な力量の向上に努める。
- (4)日々の教室清掃、登下校における交通マナーの遵守など、日常的教育活動を通して、「あたりまえ」をあたりまえに行える生活感覚と行動力の涵養に取り組む。(良識を備えた生徒の育成)
- (5)「あいさつ」や「言葉づかい」といった社会的マナーを身につけさせ、面接指導や就職試験に向けた日常からの指導を進める。(充実した日常・学校生活)
- (6)薬物乱用をはじめとする生徒たちの生命や安全を脅かす問題について、その正しい認識と防止に対して具体的な取り組みを行う。(生徒の生命・安全を守る取り組み)
- (7)資格取得(英検・漢検・その他の資格検定)に積極的に取り組む。

■コミュニケーション能力の向上が大きな話題となった。

## 府立泉鳥取高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「豊かな人間性」の涵養	<p>(1) 安全安心な学校生活。</p> <p>(2) 主体的に多様な人と協働しながら学ぶ態度を養う。</p> <p>(3) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育</p>	<p>(1) ア 新生入生に「高校生活支援カード」を「個人面談週間」等で活用しながら保護者との連携を密にし、生徒の理解を深める。</p> <p>イ 新生入生に「部活動体験」を工夫する等、部活動加入率の向上を図る。</p> <p>ウ 生徒自身が学校を大切に思い、清潔で快適な学校生活を送れるよう努力する。また、安全安心に配慮しながら校外学習や修学旅行なども工夫する。</p> <p>(2) ア 年間を通してボランティア等への積極的な参加を推進する。</p> <p>イ 生徒への声掛けを励行する。また、教員が登下校時の指導・見守りに当たるなど遅刻防止等の指導方法を検討する。それらのことにより、生徒の規範意識を高めるとともに遅刻者数を減らす。</p> <p>ウ 学校行事で生徒が前面に立った運営を行う。</p> <p>エ 「乗車マナーキャンペーン」「地域清掃」「農園活動」等の継続実施で地域とのつながりを密にする。</p> <p>(3) ア 基本的な施設の点検、改修等を継続する。また、継続して進路指導室の充実を図る。</p> <p>イ 災害等に備える知識と対応する力を生徒が身に付けるための防災教育に取り組む。</p>	<p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) -ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」70%以上 (H29_63%)、保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」60%以上 (H29_53%)</p> <p>(1) -イ 部活動加入率の10%増加 (H29_24%)</p> <p>生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」60%以上 (H29_46%)</p> <p>(1) -ウ 生徒の「自分は掃除に積極的に取り組んでいる」80%以上 (H29_71%)。また、校外学習や修学旅行等での工夫</p> <p>(2) -ア ボランティア活動等に150人以上の生徒が参加 (H29_100名)</p> <p>(2) -イ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」90%以上 (H29_84%)</p> <p>遅刻者数の10%減少 (H29_18,521名)</p> <p>(2) -ウ 行事運営に100人以上の生徒が関与するとともに生徒の「学校へ行くのが楽しい」70%以上 (H29_63%)</p> <p>(2) -エ 各種事業の継続実施 (H28_12事業)</p> <p>(3) -ア 施設の老朽化に伴う未改修箇所を減少させるとともに迅速な対応を行う。また、計画的な整備を行う</p> <p>(3) -イ 防災について学習する機会を年2回</p>	<p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) -ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」70%以上 H30_62.8%(△) (H29_63%)、保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」60%以上 H30_62.7% (○) (H29_53%)</p> <p>(1) -イ 部活動加入率の10%増加 H30_50.4%(△) (H29_24%)</p> <p>生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」60%以上 H30_50.4%(△) (H29_46%)</p> <p>(1) -ウ 生徒の「自分は掃除に積極的に取り組んでいる」80%以上 H30_66.8%(△)。(H29_71%)</p> <p>また、校外学習でのグループ散策や海外修学旅行の取組みへの挑戦</p> <p>(2) -ア ボランティア活動等に150人以上の生徒が参加 H30_150人(○) (H29_100名)</p> <p>(2) -イ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」90%以上 H30_79.9%(△) (H29_84%)</p> <p>遅刻者数の10%減少 H30_18,500名(△) (H29_18,521名)</p> <p>(2) -ウ 行事運営に100人以上の生徒が関与するとともに生徒の「学校へ行くのが楽しい」70%以上 H30_64.2%(△) (H29_63%)</p> <p>(2) -エ 各種事業の継続実施 H30_引き続いて継続実施できた(○) (H29_12事業)</p> <p>(3) -ア 施設の老朽化に伴う未改修箇所を減少させるとともに迅速な対応を行う。また、計画的な整備を行った。H30_老朽化した施設設備の整備約20カ所 (○)</p> <p>(3) -イ 防災について学習する機会を年2回 H30_年間避難訓練2回実施、地元自治体の避難訓練の協力支援1回(○)</p>
2 地域やグローバルな世界を『たくましく生き抜く力』の基となる「確かな学力」の定着	<p>(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。</p> <p>(2) 生徒に「知能・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成。</p>	<p>(1) ア 「学校経営推進費」事業等を活用しICT環境整備に努めるとともに「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる、本校に適した授業方法を研究する。</p> <p>イ 各授業や講習、補習の充実を図りながら、基礎基本の定着に努める。</p> <p>(2) ア 総合的な学習の時間が進路指導に結びつくよう基礎学力、教養を身に付けさせる。</p> <p>イ 担任、学年団及びPTA等の協力を仰ぎながら英検等の資格試験を推奨する。</p> <p>ウ 授業規律を大切に「考える」「まとめる」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを踏まえて教え方を研究する。</p>	<p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) ア 「学校経営推進費」事業等を活用しICT環境整備(全ホームルーム教室)に努めるとともに「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる、本校に適した授業方法を研究する。</p> <p>(1) イ 放課後、夏・冬の休業中に計画的で効果的な講習、補修の実施に努める。</p> <p>(2) -ア 生徒の「総合学習は進路に結びついている」70%以上 (H29_63%)</p> <p>(2) -イ 英検の受検者数を30名増加 (H29_13名)</p> <p>(2) -ウ 生身の「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」75%以上 (H29_71%)</p>	<p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) ア 「学校経営推進費」事業等を活用しICT環境整備(H30_全ホームルーム教室18教室に短焦点プロジェクターを整備)に努めるとともに「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる、本校に適した授業方法を研究する。H30_短焦点プロジェクターの活用研修〔教員向けを数回実施〕(○)</p> <p>(1) イ 放課後における医療系進路希望者への数学の補習等、夏・冬の休業中に計画的で効果的な講習、補修の実施に努めた。H30(○)</p> <p>(2) -ア 生徒の「総合学習は進路に結びついている」70%以上 H30_61%(△) (H29_63%)</p> <p>(2) -イ 英検の受検者数を30名増加 H30_25名(○) (H29_13名)</p> <p>(2) -ウ 生身の「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」75%以上 H30_68.2%(△) (H29_71%)</p>

## 府立泉鳥取高等学校

<p>3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育成</p>	<p>(1) キャリア教育プランの実行。</p> <p>(2) アセスメントの活用。</p> <p>(3) 入学前から生き方プランを考える機会を提供する。</p>	<p>(1) ア 1年次より系統立てて、生徒個々が将来の生き方を考える機会を与える。</p> <p>イ 大学等オープンキャンパス、インターンシップ、職場体験、看護体験等への参加を促す。</p> <p>ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」を再編成する。また、進路意識の高い生徒の学習の場を保障するため進学者向け講習会や合宿等を検討する。</p> <p>エ 「進路だより」等を継続して、生徒や保護者への情報の提供を行う。</p> <p>オ 粘り強い指導を続け進路未決定者を減少させる。</p> <p>(2) ア アセスメントの結果を個人面談や進路ホームルーム等で用いることにより、生徒は自分の基礎教養の定着度や「個々の弱み強み」を知る。</p> <p>(3) ア 将来の生き方をデザインし、本校で頑張りたい、と思う生徒が入学できるように広報活動の諸条件を整備する。</p> <p>イ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」実行委員会では本校に合致した内容を検討し充実を図る。</p>	<p>(1) -ア 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」75%以上 (H29 69%)</p> <p>(1) -イ 大学等オープンキャンパスで100名を超え、インターンシップ等への参加者の10%増加 (H29 80名)</p> <p>(1) -ウ 進学希望者への対応。また、大学、短大進学者数の10%増加 (H29. 1 47名)</p> <p>(1) -エ 生徒の「先生は進路についての情報をよく知らせてくれる」70%以上 (H29 49%)</p> <p>保護者の「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」51%以上 (H28 48%)</p> <p>(1) -オ 進路未決定者率を5%へ減少 (H29 10%)</p> <p>(2) -ア 個人面談は年3回、進路ホームルームでは年1回、結果を活用する。</p> <p>(3) -ア オープンスクール参加中学生の5%増加 (H29 200名) 及びイズトリだよりを発行する。</p> <p>(3) -イ スポーツフェスティバルの参加中学生数の3%増加 (H29 450名)</p>	<p>(1) -ア 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」75%以上 H30 _68.1%(△) (H29_69%)</p> <p>(1) -イ 大学等オープンキャンパスで100名を超え、インターンシップ等への参加者の10%増加 H30_110名(O) (H29_80名)</p> <p>(1) -ウ 進学希望者への対応。また、大学、短大進学者数の10%増加 H30_50名(O) (H29. 1 _47名)</p> <p>(1) -エ 生徒の「先生は進路についての情報をよく知らせてくれる」70%以上 H30 _69%(O) (H29_49%)</p> <p>保護者の「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」51%以上 H30 50.7%(O) (H28 48%)</p> <p>(1) -オ 進路未決定者率の減少 H30 _11%(△) (H29_10%)</p> <p>(2) -ア 個人面談は年3回、進路ホームルームでは年1回実施した。結果については、その後の指導に活用した。H30(O)</p> <p>(3) -ア オープンスクール参加中学生の5%増加及びイズトリだよりを発行する。H30_150名(△) (H29_200名)</p> <p>(3) -イ スポーツフェスティバルの参加中学生数の3%増加。H30_250名(△) (H29_450名)</p>
<p>4 自ら学び続ける教師集団の確立</p>	<p>(1) 授業改善のための学び合い。</p> <p>(2) 教員や保護者が本校生徒、学校の実情を知る。</p>	<p>(1) ア 年3回以上の研修会を開催する。</p> <p>イ 近隣の学校、教員等とも連携をとり、得た情報や知識を報告する機会を設けその成果を共有する。</p> <p>ウ 授業見学の機会を増やすことにより、自己の授業改善、効率化、教材の共有化に繋げる。</p> <p>エ 全国等で開催される講演・研修会や先進的な取り組みをする学校・PTA・部活動等に出向き研修する。</p> <p>(2) ア 経験の少ない教員と経験豊かな教員との情報交換をする場を定期的に設けることで、生徒支援の効率化を図る。</p> <p>イ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の提言を取り入れていく。</p> <p>ウ 教員は、生徒等の実情を理解する。言葉遣いや丁寧な対応で、人権を尊重しながら適切に対処する。</p>	<p>(1) -ア 研修会を開催し資質向上に努める。教員の「研究授業を定期的実施している」20%以上 (H29 11%)</p> <p>(1) -イ 学期ごとに1名以上が報告</p> <p>(1) -ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」70%以上 (H29 66%)</p> <p>(1) -エ 管外研修等を5人以上が実施する。</p> <p>(2) -ア 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」50%以上 (H29 41%)</p> <p>(2) -イ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」80%以上 (H29 65%)</p> <p>(2) -ウ 保護者の「先生は一社会人として適切な対応ができています」70%以上 (H29 62%)</p>	<p>(1) -ア 研修会を開催し資質向上に努める。教員の「研究授業を定期的実施している」20%以上 H30 6.7%(△) (H29 11%)</p> <p>(1) -イ 学期ごとに1名以上が報告(O)</p> <p>(1) -ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」70%以上 (H29 66%) H30 69.0%(O)</p> <p>(1) -エ 管外研修等を5人以上が実施する。H30_2名：盛岡第一、第二、第三高校訪、新聞を活用した朝のミニプレゼンや参加型授業への取り組みについて研修 (△)</p> <p>(2) -ア 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」50%以上 H30 42.2%(△) (H29 41%)</p> <p>(2) -イ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」80%以上。H30_53.3%(△) (H29_65%)</p> <p>(2) -ウ 保護者の「先生は一社会人として適切な対応ができています」70%以上。H30_67.3%(△) (H29_62%) [割合は増加したが、目標値にはわずかに達しなかった。]</p>